

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループ職員全体で、法人理念に基づいた行動理念と行動目標を作成、事務所内に掲示すると共に、朝礼時の唱和を通じて意識や実践への反映に繋げている。	事業所内に理念を掲示し理念に基づいて業務を行えるよう取り組んでいる。朝礼時に唱和し意識向上に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事等に足を運び、交流に繋がる機会を設けている。又、介護コミュニティの拠点として、地域主導で温もりある元気な地域づくりを目的とした協議会が発足され、年4回の交流イベントがある。	地域行事に積極的に参加している。法人の催しにも地域の方に来て頂き自治会にも加入し地域の一員として交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の交流イベントにおいて、地域を対象とした介護研修会をバックアップ。認知症の人の理解や介護に関連する企画を提案している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族、自治委員、民生委員、有識者(包括支援センター職員、市の職員等)で構成され、入居・活動状況等の報告、その上で意見や助言を頂き、対応や解決に活かしている。	2ヶ月に1回の運営推進会議を開催し、活動状況の報告をしている。委員の方からの意見は少ないが大事な内容については職員間で共有しながらサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	判断に迷うような案件があれば随時の報告や連絡、相談を行い、適切な判断の上で運営が出来るよう努めている。	市の担当者とは判らないことがあれば相談しながら連携を図っている。事業所の実情について相談し協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ハード面は、解放的な造りで見通しが良く、行動の把握や見守りしやすい構造になっている。ソフト面は、玄関チャイム等を用いて、知らせがあれば職員が駆けつけ、安全への配慮と束縛のない生活の提供を心掛けている。	身体拘束をしないケアをしている。戸やドアには鍵を掛けることもしていない。見守るケアを心掛け入居者が安心して生活できるよう積極的に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフルームに高齢者虐待防止を含む権利擁護指針を掲示し、職員が確認できるようにしている。又、注意すべき事柄については職員会議等で喚起している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は市が推進する市民後見人の養成講座を修了し、適切な助言や支援ができる様に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用前に運営方針及び目的、費用等について十分に説明を行い、理解(同意)が得られた上で契約を締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設入口に、運営推進会議議事録と意見箱を設置。意見や要望あれば、記録や連絡ノート、朝礼の中で周知・実行に移している。	入居者家族から出された意見や要望は記録に残し、全職員が周知し運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1度は職員との面談の機会を持ち、意見等の吸い上げを行っている。職員からの意見は記録に残し、運営や人事考課の材料にしている。	管理者と年1回職員との面談を実施している。また自己評価も行い運営や人事考課にも反映させている。内容については、すべて記録に残している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の長所が発揮されるよう職員各々が年間目標を設定。資格取得等、向上心をもって就労できるようバックアップ体制を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に1度、自己評価・第三者評価を実施し、職員の把握に努めている。又、グループ事業所全体での研修会を開催し、知識や技術、プロとしての心構えを育む取り組みをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内GHの管理者が集う連絡会で情報交換や意見交換を行う機会がある。又、市内GHの職員を対象とした見学研修を通じて、資質向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談の折、相談に至った経緯・生活歴を相談者に聴取すると共に、本人と面談し円滑な施設入居・関係でスタートできるようにアセスメント作成を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の折、相談に至った経緯・生活歴を聴取すると共に、本人の生活に対しての要望を確認し、ケアプランに反映させるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の折、本人の状態や要望から他のサービス利用や資源の活用が望ましいと判断した場合には、情報提供や必要な助言を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の場として、本人のできること・得意なことを把握し、共助の関係であることを念頭に柔軟な対応を心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族面会時には普段の様子を伝えるなど、双方の橋渡しとなっている。そのほか、家族も参加できる行事等を実施している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域行事に参加したり、長年通う病院への通院を継続し、馴染みある生活が途切れない支援を心掛けている。	利用者・家族の希望を聞きながら馴染みの場所に行ったり、自宅やドライブに行くなどして馴染みの関係が途切れない支援を心掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	大まかな一日の流れがあり、ティータイムやレクリエーションの参加を促し、共用の場に入居者が集う時間を設けている。職員も輪に入り、入居者の橋渡しをする等、関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も介護サービスやその他についての相談があれば、必要な助言やフォローが行えるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの聴取や様子観察にて、新たな意向や変化があれば情報の共有を図り、それをもとに介護計画等の見直している。	入居者家族から出された意見や要望は記録に残し、全職員が周知し運営に反映させている。本人の希望に近い形で実現できる様に努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に聞き取りや情報提供により、生活歴を確認し、入居後も本人との会話や家族・知人の面会時に話を伺い、本人への理解を深めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や職員間での意見交換を密に行い、日々の状態や変化を観察し、早期に状態の把握、情報の共有ができるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の記録から情報を得ることはもとより、課題が生じた際には、家族への報告及び確認、職員からの情報収集や意見交換を行い、介護計画を作成している。	本人や家族からの意見や希望を聞いたり、職員とのカンファレンスやモニタリングを行い、本人・家族の望む介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日を通しての様子を個別に記録し、記録の中に気づき欄を設けて、気になる事柄やケアへのヒント等があれば引き継ぎ、実践に反映できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り本人や家族の希望に沿えるような支援を心掛け、自宅のような心地良い生活が送れるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当GHIは自然や四季の移ろいを身近に感じられる環境下であり、季節ごとの催しや土地柄を活かした生活が送れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関を数か所定めているが、意向を第一優先にかかりつけ医を決定し、必要な受診支援を行っている。受診の際は的確な状態報告のもと、適切な診療が受けられるよう支援している。	入居者、家族の希望を聞き、入居前krの主治医を変えず受診している。受診には職員が付き添い医師との連携を図り、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝バイタルチェックを行い、状態の変化に注意しながら観察している。また、健康上の気づきがあれば、看護師の有資格者をはじめ職員相互で共有し主治医への相談や受診などの支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は速やかに情報提供を行うと共に、随時面会にて状態や経過の把握に努めている。又、MSWと連絡を取り、入院による不安や退院支援が滞りなく対応できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	対応可能な状態については、入居時に説明、同意のうえで利用開始しているが、ニーズに応じて可能な限り責任者と方針を共有し、本人にとって望ましい支援を心掛けている。	日常の健康管理や急変時の対応について家族と話し合いを持ち、事業所が対応できる最大のケアについて説明している。家族の希望により終末ケアに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、職員が確認しやすい場所に設置している。数名の職員は救急救命の講習を受講しており、必要なスキルを身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練計画や緊急連絡網の作成、自主防災組織図を設置しており、地域の協力体制を構築に努めている。	年2回避難訓練を実施している。自治会の連絡網にも組み込まれ住民の協力を得て実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩としての尊敬の念を忘れず、入居者一人ひとりの誇りやプライドに配慮した言葉選びをするなど、人格を尊重した関わりを心掛けている。	利用者一人ひとりにあった声掛けに努め人格を尊重しプライドを傷つけないよう配慮している。	言葉掛けについて率直なアンケートの意見があった。気になる問いであり、再度職員間で言葉掛けについて検討するの必要を感じました。期待しています。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が遠慮せずに、自身の思いや希望を表現できるよう受容した態度で、声掛けや傾聴を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課(体操や入浴等)はあるが、入居者の気分やペースを第一に、状況や状態に職員が添うように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地域の理容師が来られ、本人の希望を聞きながら整髪していただいている。身だしなみは、起床後に洗顔整髪を本人の能力に合わせて、促しや介助のもと実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	能力に合わせて、出来る範囲で準備や片付けを声掛けにて職員と一緒にしている。また、身体機能にあわせて食べやすい様に工夫している。	一人ひとりの体調や、その日の状況により、出来る範囲で職員と一緒に食後の下膳やテーブル拭き等を行っている。時には入居者の希望を聞き、食べたい物を取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と水分量を個別に記録し、食事量の減少があれば、状態に合わせた補食等に対応している。水分量の少ない方には、本人の好物等を提供し、低栄養・脱水予防に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを呼び掛け、介助が必要な人には、ブラッシング・うがい・義歯洗浄等、必要に応じて行っている。義歯は夕食後に義歯洗浄剤を使用し、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて排泄パターンの把握に努め、定期的な声掛け及び誘導を行っている。安易なオムツ使用は控え、排泄機能の維持向上を目標とした対応に努めている。	入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、定期的に声かけ、誘導等を行っている。自立に向けた排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度に体を動かす機会を設けるとともに、水分補給やオヤツにヨーグルトを取り入れ、自然排便に繋がるよう取り組んでいる。希望者は牛乳を購入し、予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	予め入浴日は決めているが、気分や希望にあわせて、本人のリズムで入浴していただいている。洗身等、出来るところは本人にしている。	本人の希望を聞きながら、その日の体調や気分を確認しながら入浴を行っている。入浴を嫌がる入居者には時間をづらしたり、タイミングを見て声かけ等を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の表情や状態に気を配り、疲労があると思われる時は休息を促すようにしている。また、夜間不眠の方には、話を傾聴する、安心感が得られるような声かけをする等、穏やかに過ごせるよう対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の内服薬とその効果をまとめた表を作成し、理解に努めている。症状の変化等については、かかりつけ医に報告、相談し対応している。必ず日付と名前を確認し、服薬介助を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族から情報収集を行い、日常生活やレクリエーション、個別活動のなかで趣味や得意分野を楽しめるように努めている掃除やテーブル拭き、御飯をよそっていただいたりと、個々の能力に合せた役割を持ってもらえるよう働きかけしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	地域で行われる季節ならではのイベントに参加したり、天気の良い日には、戸外散歩や定期受診後に自宅までドライブしたり、自由や満足感が得られるよう支援している。	季節によりドライブをしたり、外食やイベントに参加している。近隣の散歩や自宅までドライブをしたり、利用者や家族に喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に職員がお金の管理を行っているが、一人ひとりの希望や管理能力に応じてお金を所持している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節のお便り(年賀状や暑中見舞い)を恒例の季節行事として行い、人との関わりや習慣、楽しみが在宅同様に継続できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	開放感のある窓を取り入れ、外の様子や季節の移ろいを眺められるようにしている。居間(共用スペース)も季節を表すような飾りがしてあり、心地よく過ごせるように努めている。	季節を感じるができるように、花や折り紙を飾ったり、利用者の作品を掲示するなど思い思いに過ごせる様に配慮されている。窓が大きく室内からも外の様子がわかり快適な空間で過ごされる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者が快適に過ごせるように場面により、座席を工夫したりと配慮に努めている。居間にはソファを設置し、くつろいで過ごしていただけよう環境を状況に合わせて調整している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は家具や寝具など、利用者の使い慣れたものなど持ち込んでいただき、レイアウトも本人が快適に、安全に過ごせるように整備している。	身の回りの使い慣れたタンス、テーブル等持ち込んでいる。本人、家族と相談しながら配置を工夫している。クローゼットもあり整理整頓ができる。部屋も明るく居心地良く過ごせる様に工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	木造平屋造りで、適所に手すりを設置する等、安全への配慮を行っている。また、利便性を高めるばかりではなく、本人が使い慣れ、認識しやすいものは、あえて利用者の視点で考え、取り入れている。		